

# 事故防止に向けた安全対策

## 【 水泳 】

### 1 競技特性

- (1) 水泳は競泳、飛込、水球の3競技（種目）に分類され、競泳は、一定の距離を定められた泳法で泳ぎ、タイムを競う競技である。飛込は、一定の高さの飛込台から空中に飛び出し、着水までの一連の動作の技術、美しさを競う競技である。水球は、7名で構成された2つのチームがプール内に作られたコートの中で、ゴールにボールを入れあい、点数を競う競技である。
- (2) 水中での競技のため呼吸制約を受けること、体表面の多くを露出したまま実施すること、スタート時に水中への飛び込みを伴うことなどに関して、特に安全上の配慮が必要となる。
- (3) 競泳：スタート練習時にプール水底に頭部を強打（頸椎損傷・骨折）  
 飛込：プール入水時に水面に体表面を打ちつける（骨折・打撲）  
         飛込板に頭部を打ち付ける（裂傷・骨折）  
 水球：相手選手との接触による負傷（打撲・骨折）

### 2 想定される事故事例と予防策

#### (1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プールサイドでの転倒</li> <li>・     "          で足を切る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挫傷、打撲</li> <li>・ 裂傷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プールサイドの整理整頓、滑りやすくなっていないかの確認</li> <li>・ プールサイドの清掃を徹底する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レーンロープへの接触</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 裂傷、打撲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レーンロープの破損個所の修理</li> <li>・     "          カバーの設置</li> <li>・     "          に緩みなどが無いかの確認</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プールの水質悪化のための感染症等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感冒、感染症、外耳炎、中耳炎、気管支炎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水素イオン濃度、残留塩素濃度の測定、確認を定期的に行い水質管理に注意する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水底への接触</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 裂傷、打撲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プールを常に満水状態に保ち、水深を確保する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 壁への接触</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 裂傷、打撲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 背泳ぎ用三角旗（5Mフラッグ）を設置する。</li> <li>・ 水底のラインが消えている場合は補修する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飛込によるけが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頸椎損傷、打撲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飛込レーンを明示する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノーパニック症候群</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溺死</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周囲への配慮をおこない、指導者や監視者が死角をつくらぬよう工夫をする。</li> <li>・ 死角を生む可能性のある用具の使用については、危険性を周知する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 排水溝への吸い込み事故</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溺死</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 排水溝の管理</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設使用上、監視業務や緊急時の連絡体制の不備によるけが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溺死、裂傷、打撲等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設管理団体と連携をとり、事前の打ち合わせを綿密に行う。緊急時の対応は運営側で共有する。</li> </ul>

## (2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋肉のけいれん</li> <li>・緊張による過呼吸</li> <li>・個々のレベルに合わない練習によるけがや疾患</li> <li>・熱中症</li> <li>・飛込練習時の入水角度による事故</li> <li>・他の泳者との接触</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溺死</li> <li>・溺死</li> <li>・過呼吸など</li> <li>・けいれん</li> <li>・脊椎損傷、骨折</li> <li>・挫傷、裂傷、打撲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動を十分に行い、能力に応じた種目の選択をする。</li> <li>・過大な緊張を与えないように、リラックスできる場所を設置する。</li> <li>・泳力を把握し個々に見合った練習メニューを組む。</li> <li>・定期的な水分補給を徹底する。</li> <li>・水分補給ができる場所を設置する。</li> <li>・レベルに応じた段階的な指導を徹底する。</li> <li>・アップやダウンなど緊張が緩んでいる場面では特に注意する。</li> <li>・泳ぐ方向やスタート練習レーンなど練習時のルールを徹底する。</li> <li>・人数が多い際は、パドルなど道具の使用を制限する。</li> </ul>

## (3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・急激な気温の変化による事故</li> <li>・地震による事故</li> <li>・落雷による事故</li> <li>・Jアラート発令時の対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心停止</li> <li>・打撲、骨折</li> <li>・感電死</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日との気温の変化に注意し、定期的に外気温の確認をする。</li> <li>・地震時は速やかにプールから上げ、避難経路にしたがって安全な場所に誘導する。</li> <li>・屋外プールにおいては落雷の恐れがある場合は直ちに活動を中止する。</li> <li>・千葉県高体連危機管理マニュアルにしたがい、避難方法は参加者に事前に周知する。情報収集の手段や関係者及び保護者との連絡方法について準備しておく。</li> </ul>